ゆずりは太鼓

事務局所在地：新見市高尾275-3　代表者氏名：中 西 聖 治
電話番号：0867-72-8111　ＦＡＸ番号：0867-72-8111

文化活動の目的

ゆずりは太鼓は、昭和50年４月、中世末期に栄えた備中国新見庄に存在した「ゆずりは城」の落城から400年を記念して行われた祭の際、日本古来から伝わる和太鼓を取り入れ郷土芸能として結成されました。今では新見市の明るい豊な文化創りに貢献し、また、市民に親しまれ愛される太鼓として日々練習に打ち込んでいます。曲の内容も古いリズムから新しいリズムと幅広く取り入れ、太鼓、笛、鐘、等々を用いて自分たちにしかできない音（曲）創り、パフォーマンスを目指して新見市の一つの文化となることを目的としている。

文化活動の経過

ゆずりは太鼓は、昭和50年４月にゆずりは城落城400年祭に打たれた太鼓を、青少年健全育成のためにと地元中学生（女子）により打ち続けられていました。その後昭和60年頃からだんだんと入会する子どもたちが減ってきました。これではと地域の青年たちが入会し、活動を引き継ぎ会員も徐々に増えてきて、現在に至っています。近年は学校、施設、地域団体等への訪問演奏やワークショップと幅広く交流、活動させていただいています。また、私たちの成果の発表の場として、平成11年11月に「寒月の宴コンサート」を実施致しました。以降毎年はできないのですが、平成17年11月迄４回のコンサートを開催させて頂きました。また、年間の出演は多い年で30回位有ります。以下は主な出演状況です。

平成６年３月27日　第１回県下和太鼓コンサート（総社）
　　　　６月16日　第15回まつり・イン・ハワイ
　　　　11月３日　音楽芸能祭（平成17年迄毎年参加）
平成７年３月19日　阪神大震災　千屋チャリティーコンサート
　　　　７月29日　第９回国宝松本城　全国太鼓フェスティバル（長野県松本市）
　　　　10月12日　ジャパンフェスティバル95　中国大連
平成８年８月３日　全国ボーイスカウトジャンボリー
平成９年10月12日　新見庄まつり
平成10年４月10日　太鼓体験教室（一週間）
平成11年11月28日　ゆずりは太鼓　寒月の宴コンサート
平成12年10月12日　県下中学校校長会
平成13年８月14日　哲西荘納涼祭（養護老人ホーム）
平成14年６月２日　夏彩和太鼓フェスティバル（久世）
平成15年１月13日　国営丘陵公園　春まつり（広島県三原市）

ゆずりは太鼓30周年記念寒月コンサートのポスター

平成17年11月20日　ゆずりは太鼓　寒月の宴コンサート（横笛奏者　朱鷺たたら特別友情出演）
平成18年５月５日　日本道路公団大佐サービスエリア

文化活動の成果

私たちの太鼓は郷土の文化として根付いてきています。単に趣味だけに終わらず、学校施設、各種団体等幅広く訪問し、演奏と共にワークショップ等を行っています。訪問先では大変喜んで頂いています。介護施設、老人ホーム等では大きい音が出るので心配もしておりましたが、いざ演奏をしてみるとリズムに合わせて体をゆすったりと、大変喜んで頂きました。ワークショップでは、子どもたちが実際太鼓に触れて、太鼓に興味を持ってくれました。また、たくさんの太鼓チームとも交流することができ、私たちに無いもの、不足しているものなど多くのことを学びました。これからも色々な所へ行かせて頂き、その場その場に合った太鼓の交流をして行きたいと思います。

迫力ある演奏で聴衆魅了
ゆずりは太鼓・30周年記念コンサート

新見市の和太鼓演奏グループ・ゆずりは太鼓保存会は20日、「まなび広場にいみ」大ホールで30周年記念・寒月コンサートを催し、迫力ある演奏で満員の聴衆を魅了した。
ゆずりは太鼓は昭和50年、中世末期に栄えた備中国新見庄にあった「ゆずりは城」の落城から400年を記念して行われたまつりの際、和太鼓を取り入れた郷土芸能として結成。60年に青年部が加わり、県内外での公演や創作太鼓に取り組んでいる。
4回目を迎えた演奏会は、サンバをイメージしウキウキした気持ちを曲にした「CHAKA・CHAKA」で幕開け。「繚乱」「ゆずりはばやし」や新曲の「狂想(きょうそう)」「丹青(たんせい)」などリズミカルかつ力強い演奏を繰り広げた。また、横笛奏者の朱鷺たたらさんが特別友情出演し「たたらの森の奥深く」「蹴抜峠」で幻想的な音色を響かせたほか、「鬼神」で競演。終わりに近付いたころ、頭の中西聖治さんが「皆さんの手助けがあってここまでこられた。もっと実力を高め、心も磨いていきたい」とお礼を述べ、「歓喜」やアンコールの「華」では躍動的で会場と一体になった演奏を披露し、大きな拍手を浴びた。（金森）

躍動的に演奏するゆずりは太鼓メンバーら

平成17年11月23日　備北民報新聞より

多彩な曲想聴衆を魅了
ゆずりは太鼓　30周年コンサート

新見市のゆずりは太鼓保存会は二十日、まなび広場にいみ大ホールで、結成三十周年を記念した「寒月コンサート」を開いた。
舞台は、サンバをイメージした「CHAKA・CHAKA」で開演。
の「狂想」「丹青」など切れ味を増したバチさばきで、多彩な曲想を奏でた。
特別友情出演した横笛奏者朱鷺たたらさんが「たたらの森の奥深く」「蹴抜峠」を演奏し、「鬼神」ではゆずりは太鼓と
ンコール曲は、情感表現の奥行きを深めた演奏で、満員の聴衆を魅了し、和太鼓の世界に引き込んだ。
ゆずりは太鼓は昭和五十年、中世の山城「ゆずりは城」落城四百年の記念イベントで結成され、同六十年、青年部をメンバーに加え、オリジナル曲を中心に市内外で演奏活動を繰り広げている。

見事な演奏を披露したゆずりは太鼓

づかいやあいさつなどのマナーを学習してきた。
この日の職場体験は、一～七人が新見、高梁市内の五十五の企業や福祉施設などに分かれた。新見保育所（横内寿美恵所長）は六人の生徒を受け入れた。生徒は年齢別の各クラスで子供たちの世話をし、発表会の準備物づくりを手伝った。
東郷真実さん（14）は「子供たち全員に目を配ることは大変だけど、一緒にふれあい楽しい。将来は保育士になりたい」と話しながら、二歳児クラスで園児の昼食の世話をしていた。

平成17年12月５日　備北新聞より

今後の課題と問題点

私たちの打つ太鼓は全員が一丸と成って一生懸命打つ姿が良いとよく言われています。しかしこれから先のことを考えると、まずメンバーの増強が第一の課題です。仕事の都合とか、勤務等で増えたかなと思うとすぐ減り、なかなか思うように行きません。また、会を維持して行くことも大変なことです。太鼓、道具の購入、修繕が資金の不足でなかなかできません。そのため練習の成果の発表の場でもあるコンサートも続けて開催することもできないのが現状です。以上の問題をメンバーでいろいろと話し合い、地域に貢献できるように、メンバー一同頑張ってゆずりは太鼓を盛り立てて行きたいと思っています。

●執筆者：中西聖治